

経鼻内視鏡検査同意書(手術、検査、治療、その他) 文書 No.0029

【説明内容】(手術、検査、治療、処置、投薬、メーカー立会い、その他)

検査予定日:(西暦) 年 月 日

名称: 経鼻上部消化管内視鏡検査

- 検査目的 : スクリーニング  
経過観察  
病変精査(腫瘍、ポリープ、潰瘍)  
有症状(腹痛、吐血・下血、食思不振)  
その他( )

上記のように説明をしました。

別紙にて説明をしました。(別紙 No. 0034)

西暦 年 月 日 時 分

医師名 \_\_\_\_\_

説明について同意します。

西暦 年 月 日 時 分

署名 \_\_\_\_\_

本人以外の場合は患者さんとの関係( )

患者本人が署名できない理由(代理署名の理由)

15歳未満 重篤・意識障害 ペンが持てない その他( )

全科共通

# 経鼻上部消化管内視鏡検査説明書

## 【検査の目的】

鼻から内視鏡(胃カメラ)を挿入し、上部消化管(食道・胃・十二指腸)を詳しく観察して病気の有無を確認します。精密診断のために、薬液を撒布したり、粘膜を一部とって調べたり(生検)する場合があります。食道炎、胃炎、胃・十二指腸潰瘍、ポリープ、がんなどの正しい診断には最も大切な検査です。

## 【患者さまに事前に確認して頂くこと】

- 検査を安全に行うために、全身状態の把握や感染症の有無について、採血検査・尿検査・心電図検査などを行う場合があります。
- 出血がとまりにくい病気や、治療のため血液を固まりにくくする薬(ワーファリン・パナルジン・プラビックス・バイアスピリン・パファリンなど)を服用中の方は、「生検」により多量の出血がみられる可能性があります。紹介いただいた主治医の先生・当院担当医師・看護師とよくご相談していただき、普段服用中の薬の中断が必要なこともありますので、あらかじめ申し出てください。
- 必要に応じて検査直前に、胃の運動を抑える注射や、ご希望により鎮静剤(眠り薬)の静脈注射を行いません。こうした薬は、患者様の病気や状態によっては、種類を変更するか使用できないことがありますので、あらかじめ詳しく問診します。経過観察などで、繰り返し内視鏡検査を受けていただく場合も、内服薬や治療中の病気などの変更がないか確認させていただきますので、ご協力をお願いいたします。

## 【検査前の準備】

- ◆ 検査前日の夕食は、消化の良いものを 19 時までにお召し上がりください。以後、検査終了まで食事はできません。また、寝る前にコップ2杯の水またはお茶をお飲みください。
- ◆ 検査前日の水分制限はありません。  
検査当日は、朝起きてから検査予約時間の2時間前まで水やスポーツ飲料など透明な飲み物を 150mL ほどお飲みください。
- ◆ 検査当日の朝の薬は指示のとおり内服してください。  
高血圧治療薬・パーキンソン病治療薬・抗けいれん剤・心臓病治療薬(血液を固まりにくくする抗凝固剤以外)などは、食事をしなくても必ず内服してください。
- ◆ 糖尿病の方は、当日の朝のインシュリン・血糖降下剤を中止してください。  
また、中止の指示をされた胃薬・抗凝固剤などは飲まずに来てください。
- ◆ 鎮静剤を使用される場合は、検査当日の車・バイク・自転車の運転はできません。公共機関を御利用ください。病院で検査後1~2時間ベッドで休んでから帰宅していただきますので、時間に余裕を持ってお出掛けください。

これらの内容は画像インフォメーションにて詳しく説明させていただきます。

お手数ですが、必ず説明をお受けください。(入院中の方は、病棟スタッフが対応します。)

## 【検査の方法】

1. 前処置室で消泡剤(白い液体で胃の中をきれいにして)を飲みます。
2. 鼻の粘膜の通過を良くし出血を防止するために粘膜の血管を収縮させる薬を噴霧します。麻酔薬(キシロカインビスカス)を注入し、通過を良くするため細い管を鼻に入れます。
3. 必要に応じて胃の運動を抑える薬(抗コリン剤など)を筋肉注射します。
4. 検査室へ移動し、入れ歯・眼鏡をはずしてベルトをゆるめ検査台の上で、左側を下にして横向きに寝ます。
5. 通常は鎮静剤を投与しません。
6. 内視鏡が鼻を通して挿入され、検査が始まります。片方の鼻で挿入しにくい場合はもう一方の鼻から挿入します。鼻腔の狭く両側とも挿入できない場合は口からの挿入に変更します。
7. 肩・首・のどの力をぬいてください。唾液は飲み込まずに口から外に出します。ゲップはなるべく我慢してください。通常検査は5～15分前後で終了します。

## 【検査後の注意】

- ◆ 胃の運動を抑える注射で、動悸や目がぼんやりする感じなどがみられることがあります。
- ◆ 検査後、鼻・のどの不快感が残ることがあります。多くは一時的ですが、まれに内視鏡の通過により、のどに傷やむくみが生じることがありますので、不快感や痛みが強くなる時は、早めに病院を受診してください。鼻出血がある場合は、血管収縮剤を鼻腔にスプレーするか、指や綿球で圧迫して止血します。帰宅後に鼻出血がある場合は親指の腹で鼻翼を15分以上圧迫して、それでも止まらない場合は連絡してください。
- ◆ 精密診断のため食道や胃の中に薬液(色素液・ヨード液・うすい酢酸などの院内製剤)などをまくことがあり、散布中に胸焼けなどの症状が起こることがあります。ヨード液を使用した場合は中和液もまきます。また、検査後に一時的に尿や便の色が変わることがあります。中和液(院内製剤)を使用した場合は同意書をいただいております。
- ◆ 鎮静剤を使用した場合は、検査当日は車、バイクなどの運転はできません。病院で検査後1～2時間ベッドで休んでから帰宅していただきます。
- ◆ 飲水、食事は指示を受けて(通常検査終了30分後より)とってください。検査後にスタッフより説明があります。
- ◆ 生検された方は、刺激のある食事、飲酒、コーヒーなどを当日はなるべく避けてください。
- ◆ 当日の激しい運動はおやめください。
- ◆ 最終検査結果は後日となりますので、次回外来診察日をご確認ください。
- ◆ もし、吐き気や腹痛が生じた場合には担当部署(外来、内視鏡検査室)へ至急連絡してください。

連絡先;平日 8:30～17:00    053-474-5545 内視鏡室

上記以外    053-474-2222(代)救急外来

## 【検査の偶発症・合併症】

万が一、出血、穿孔などの合併症が生じた場合、速やかに対処いたします。入院や緊急の処置・手術および出血には輸血が必要になることがあります。なお、出血、穿孔などの発生頻度は全国集計(1998年から2002年の5年間)で0.007%(13589人に1名の割合)で、死亡にまで至る重篤な偶発症は0.00045%でした。

聖隷浜松病院 内視鏡室 作成 2011年1月 改訂 2021年3月

診療録管理情報(スキャン: ■不要)